

20年節目イベント多彩

温泉交流施設「ぼかぼかランド美麻」で5日、開業20周年記念式典が開かれた。関係者約50人が出席し、節目を祝い、市民の健康増進やふれあいの場としてさらなる充実を願った。ぼかぼかランド美麻は、国のふるさと創生基金を活用した温泉掘削の成功を受けて平成5年にオープンした。(2013.10.6)



記念式典でさらなる充実を誓う

中学生の手で公開収録



美麻地区文化祭が26、27両日、ぼかぼかランド美遊で行われた。27日の美遊特設ステージで、インターネットテレビ「オオマチミアサテレビ」の文化祭号が、撮影や司会進行など中学生の手で行われ、番組内で中学生が発案した同地区のゆるキャラが発表された。(2013.10.31)

高齢者の体 疑似体験

美麻小中学校は1日、校内で福祉体験教室を開いた。5、9年生が、市社会福祉協議会や大町点訳ほたるの会会員などを講師に、学年ごとに手話や車椅子、点字、アイマスク体験などを行った。(2013.11.6)

地域特産「ジビエ」学び

美麻小中学校9年生の「ジビエ班」の4人は4月から、総合的な学習の一貫として、地域の特産であるジビエへの学びを深めてきた。6月には、同地区内の食肉加工施設、美麻ジビエ工房で、

シカの解体にも立会い、実際に体験した。見学を終えた生徒らは命の重みや、食べ物の大切さを知り、食前のあいさつ「いただきます」の意味を改めて考えるきっかけとなったと話していた。シカ肉を使った焼きそばやクッキーを携え、10月に行われた美麻地区文化祭にも参加し、生徒らは菜の花オイル、ひまわりオイルを使うことで、さらにおいしくなった」と研究成果を発表していた。(2013.11.13)



実践者「学び」地域へ

「元気な地域づくり講演会」と「地域づくり事業成果発表会」は29日、大町市のJA大以北会館アプロードで開いた。事業成果発表会では、昨年度の地域発元気づくり支援金の優良事業を表彰した。被表彰者・事業は次のとおり。▽知事表彰「美麻ジビエ振興会（自然からの贈り物「ジビエ」普及）、▽地方事務所長表彰「大町映像文化財を残す会（映像文化・保存活用）」ほか。(2013.11.30)

80年以上続く伝統の技



美麻小中学校で22日、6年生と9年生が、美麻の特産である麻の繊維をすきこんだ紙すきに挑戦。来春もらう自分の卒業証書用の和紙をすいた。美麻支所に同市社松崎で80年以上続く伝統的な和紙製造業の松崎和紙工業が原料や機材など一式を同校の理科室に運び込んで行われた。職人の腰原修一さん(51)の指導で、22人の児童生徒が卒業証書づくりに取り組んだ。(2013.11.27)

25年節目 感謝の音響く

源流美麻太鼓はち納め演奏会

大町市の源流美麻太鼓の会は8日、結成25周年の節目のばち納め演奏会「源流からの鼓動25」をサン・アルプス大町で開いた。四半世紀を支えた地域住民の応援に感謝の気持ちを込めて、満席の会場に向けて和の音を響かせた。

同会は平成元年、旧美麻村の村制100周年を記念して創設。現在は、小学2年生から高校2年生までの子ども会26人・大人会5人のチームで、地域の観光イベントでの演奏や福祉施設の慰問などの活動を重ねてきた。(2013.12.10)



25年節目 感謝の音響く 源流美麻太鼓はち納め演奏会

2014年



美麻小中学校で28日、7、9年生33人がそば打ち体験を行った。地域の伝統食として伝わるそばの打ち方を学び、地域ならではの食文化に触れた。総合的な学習とキャリア教育を兼ね、地域について考えを深める「市民科」の授業の一環として実施。

そば処で知られる同地区新行でそば店を営む種山博茂さんを講師に、美麻地区社会福祉協議会のそば打ち教室の受講生らがサポーターとなり教えた。「そば粉はお湯で、つなぎ粉は水でとく」など、生徒たちに「美麻流のそば打ちを直伝。生徒たちは「いい香りがする」などと、プロならではのこねに感心していた。

(2014.1.30)

「コミュニティ・スクール実現へ」

美麻小中学校で来年度導入するコミュニティ・スクールの実現に向けた学習会が31日、ぽかぽかランド美遊で開かれた。地域住民や保護者、学校職員が一堂に会して地域活性化とコミュニティ・スクールの関係について学んだ。

(2014.2.4)

「ぎんれい」開発者宇宙語る

美麻地域づくり会議は16日、信州産人工衛星「ぎんれい」の開発を統括する信州大学特任教授・中島厚さん(66)を招いた講演会を美麻公民館で開いた。中島さんはかつての山村留学生の保護者として、受け入れ先の地域に感謝を込め、発射を控えた衛星の可能性や宇宙開発の魅力を紹介した。(2014.2.9)

「三代目フレンチアレンジ」

みあさ保育園でこのほど、フレンチアレンジ講習会が行われた。小原流生け花教室の後藤美智子さん(87)を講師に美麻青具のふれあい地域サロン「お茶のまねー会」の昨年寄りと園児、その保護者らが交流しながら楽しんだ。

(2014.3.25)

「地域デザイン」学ぶ

美麻地域づくり会議(宮沢雄一会長)は26日夜、地域デザイン教室を美麻小中学校で開いた。住民14人が参加し、率先してまちづくりについて考える「地域デザイン」を学んだ。住民自らが地域らしさを表すため、平成26年度版の「美麻コミュニティカレンダー」に使用する写真のデザイン校正に挑戦した。

(2014.3.29)

9年生に手を引かれ入場



大北地域の小・中・高校で4日、入学式がピークを迎えた。大町市の美麻小中学校では、本年度から小中一貫コミ

ュニティ・スクールとして新たな体制でスタート。初の入学生となる9人が、新1年生となった。

入学式では、新1年生が中学3年生にあたる9年生に手を引かれ、拍手の中を入場。同校では、小学校と中学校が一体となった小中一貫教育で小学1年生から9年生まで、子どもたちの成長に合わせた教育を目指す。(2014.4.5)

「教育環境 学校、地域一体で」

大町市教育委員会は9日、美麻小中学校の小中一貫教育開始に伴い、地域住民でつくる美麻学校運営協議会を立ち上げた。協議会は学校運営について、基本方針の承認や学校への意見、運営状況の評価などをを行うのが役割。

第1回会合が同校で開かれ、藤井一男教育委員長が委員13人に任命書を交付。互選により会長に北沢伊統男氏、副会長に傘木則興氏が就任した。

(2014.4.11)

「麻野たいまる」美麻PR

美麻小中学校の生徒が考えた地域のキャラクター「麻野たいまる」君が17日、登場した。1000年前の平安時代

からやってきた農民という設定。同地区では平安時代から麻の栽培が盛んだったという歴史を背景にシュールな表情をしている。昨年の9年生が、総合的な学習の時間「美麻市民科」で考案したキャラクターのうちの一体。子どもたちの熱意を受け、美麻地域づくり会議が約50万円の予算で、着ぐるみを制作した。今後は、生徒たちの手ではぐくみ、学校運営協議会の一員として活躍する。(2014.4.19)



市全域から通学可

大町市教育委員会は来年度から、八坂小学校、八坂中学校、美麻小中学校の3校を対象に、市の全域からの通学を認める「小規模特認校制度」を導入する。原則1年間以上

で、通学は保護者の責任と負担で行う。市バス活用の通学生には、JR信濃大町駅から学校までの範囲に限り定期券を発行する。(2014.5.29)

遊びで体の使い方学ぶ



後方の的を狙いボールの重さと的の点数で競う

美麻小中学校で17日、東海大学体育学部体育科の内田匡輔准教授と同研究室の学生8人による元氣アップ運動指導が行われた。元氣アップ運動は、朝に体を動かすことで一日へのスイッチを入れ、集中力を高める目的で同校が4年前より取り組む。(2014.7.20)

一夜限りの祭り 催し多彩

大町市市政施行60周年・合併10年を記念した「美麻夏まつり」が30日、大町市の美麻総合福祉センター梨嶺駐車場で開かれた。



一夜限りの祭り 催し多彩
大町市制施行60周年・合併10年記念 美麻夏まつり

一夜限りの祭りに、地元や市外から1000人近くが訪れ、大人から子どもまでさまざまなイベントを楽しんだ。美麻小中学校7年生が千見地区住民から習った獅子舞の披露やみあさ保育園のみこしが祭りの雰囲気盛り上げた。(2014.9.2)

月夜に太鼓 山々に感謝

世界的なシンセサイザー奏者・喜多郎さん(61)＝米国カリフォルニア州在住＝を中心に和太鼓を一夜かけてたく「北アルプス奉納太鼓」が9日夜から翌朝にかけて、大町市美麻の丸山公園運動場で行われた。会場には、地元の太鼓グループや県内外の太鼓愛好者が、一般参加者400人以上が参加。(2014.9.11)

学校前広場に交流の森を

美麻小中学校玄関前広場でこのほど、平成26年度の「緑と水の森林フアンド事業」助成金を利用した植栽作業が行われた。同校からの要望を受け、美麻小中学校支援ボランティア地域部が主体となって計画。



ボランティアのほかPTAや教諭など約30人が、八坂地区の造園業「フォレスト八坂造園」の協力・指導を得て、助成金で購入したヤマザクラやシラカバ、コブシなど18本を植栽した。今後山野草なども植栽し来年春までに玄関前広場に交流の森を完済させる。(2014.9.20)

女子中学生美麻スイーツ開発



地元産花豆やクワの実で
女子中学生美麻スイーツ開発

美麻小中学校9年生の女生徒が、美麻産の花豆やクワの実を使ったオリジナルスイーツを開発した。26日に開かれる美麻地区文化祭で試食が行われる。

総合的な学習の一貫として「美麻スイーツ開発部」の6人がアイデアを出し試作を重ね、地域の人達とともに開発。9月には地区内二重の飲食店「青空屋台のおうち」で商品化に向けた試食会を行った。美麻の特産はソバが有名だが、より多くの人に食べてもらえる特産品をと低アレルギーメニューにこだわって開発した。美麻二重の小林文さん(15)は「クワの実を大福生地混ぜ込むのが難しかった。すごくおいしく出来た」開発

を振り返り、文化祭への来場を呼びかけている。(2014.10.16)

長野県北部震度6弱

22日午後10時8分ごろ、県北部を震源とする強い地震があった。長野市戸隠、鬼無里、北安曇郡小谷村中小谷、上水内郡小川村高府で震度6弱、長野市箱清水、豊野町、中条、北安曇郡白馬村北城、上水内郡信濃町柏原で震度5強を観測した。長野地方気象台によると、震源の深さは約10キロ、地震の規模はマグニチュード(M)6.8と推定される。県警によると、白馬村神城では家屋5棟が倒壊し、中にいた21人全員が救出され、うち2人がけがをしたという。白馬村の消防団によると、同村神城では、堀之内公民館を含め10棟以上が半壊した。県警によると、国道148号の岩岳入口信号(白馬村)―梅池スキー場入口交差点(小谷村)で土砂崩落があり、通行止め。大町市美麻の県道長野大町線では路面が盛り上がり、新行―青具間が通行止めとなった。県河川課によると、地震発生後、白馬村を流れる姫川の

一部の水位計で10センチほど水位が上がるのが確認された。土砂崩れなどによる河道閉塞の恐れがあるため、同課が調べている。

中部電力長野支店によると、23日午前0時現在、大町市平、美麻、白馬村神城、北城の計700戸が停電している。

県は災害対策本部、県警は災害警備本部を設置した。県は22日深夜、白馬村と小谷村に避難所の経費などを国と県が負担する災害救助法を適用した。

政府は首相官邸の危機管理センターに官邸対策室を設置。安倍晋三首相は被災者の救助などに全力を挙げるよう指示した。このほか、陸上自衛隊の先遣隊が現地に派遣された。(2014.11.23)

大町市内の被害状況の対応

大町市は、建設課を主体に、美麻地区を中心として市内全域のクラック（亀裂やひび）など道路状況の確認や、大町市建築士会による家屋などの亀裂など被害の危険度判定を行っている。

美麻地区で起きている上下水道の断水には市の給水車で対応。大町市災害対策本部によると、市内では、住めなく

なるような倒壊などの被害のある家屋はないが、家具などが散乱したため自主的に親戚の家などに避難している世帯もあるという。(2014.11.25)

白馬美麻線片側が開通

22日の県神城断層地震の影響で、大北管内の国道・県道や鉄道などの交通網が寸断され、各機関で復旧作業を急いでいる。県道白馬美麻線は地震発生から3日後の25日正午、通行止めを一部解除し、白馬村から長野市方面への交通が回復した。

土砂崩落や路面隆起により全面通行止めだった白馬村堀之内から大町市美麻・長野市に通じる県道白馬美麻線は、一部交互通行により開通した。県道長野大町線の青具地籍は23日、片側交互通行で開通している。(2014.11.26)

被災地で詐欺被害懸念

震災後、被災地で義援金募集を装ったり家屋の高額修理を請求するなど詐欺、悪徳商法の被害が増えることから、大町署や大北防犯協会連合会は「防犯速報」としてチラシを作成し、地域住民に注意を呼びかけている。(2014.11.29)

青具で「危険」4軒

神城断層地震で大町市でも被害の大きかった白馬村堀之内に近い美麻地区青具を中心に、住宅や道路に大きな被害が発生した。市では開会中の補正予算の追加議案提出を検討していると明らかにした。

川手・米山・塩の川・峠などの集落で住宅が被災し、土壁の崩れや地面のひび、家財の転倒などの被害が相次いだ。美麻・八坂・平地区の市道・林道17路線で、路肩決壊や路面亀裂、段差やのり面崩落などが発生。美麻地区で6路線が通行止めとなった。



住宅の応急危険度判定では、23軒のうち「危険」が米山で2軒、峠で1軒、「要注意」が川手で7軒、小藤・大藤・米山・日向でそれぞれ1軒と判定された。(2014.11.27)

大町の災害対応県に要請

神城断層地震で美麻地区を中心に被災した大町市の牛越徹市長と小林治男市議会議長は28日、県に緊急の災害対応を要請した。白馬村や小谷村などと比べ注目されず、国の生活再建の対象とならないため被災者が不安がっていることを訴え、対応を求めた。

被災家屋の修理や半壊建築物の除去など被災者の生活支援に向けた支援措置を中心に、道路などの生活基盤施設の復旧や災害拠点病院の大町病院の支援、風評被害などによる観光客減少の抑制など10項目を求めた。

牛越市長は「山間部・夜間の災害のため、明るくなって初めて被害がわかった・大きな被害もなかなか情報発信されず、住民には取り残されたのではという不安がある」と訴えた。

災害ボラ窓口開設

大町市社会福祉協議会は28日までに、神城断層地震で被害に遭った市内被災者からの災害ボランティア相談窓口を開設した。市内でも美麻地区を中心に家屋などに被害が出たことから、家の中の片付

けやごみ出しなど、支援の必要な人に相談するように呼び掛けている。(2014.11.29)

ぽかぽかランド美麻 休業し点検

神城断層地震の影響で、大町市内の観光業にも影響が発生している。震源地に近かった美麻青具の宿泊施設・道の駅「ぽかぽかランド美麻」は2日から、点検のために全館休業することを決めた。一方、被害が少なかった他の観光施設でもキャンセルなどが相次ぎ、これからの冬シーズンに向けた情報発信が急務とされる。(2014.12.1)

美麻でボラ活動



神城断層地震で被害に11月30日、大町市社会福祉協議会が募ったボランティアの活動が始まった。

初日は8人のボラが、川手地区と米山地区で、相談のあった被災者宅で破損した家財やはがれた土壁などの片付けや清掃を手伝った。美麻診療所の医師や看護師も同行し、住民の健康のケアも気遣った。市社協では、災害ボランティア相談窓口を開設した。市内でも美麻地区を中心に家屋などに被害が出たことから、家の中の片付けやごみ出しなど、支援の必要な人に相談するよう呼び掛けている。

(2014.12.1)

阿部知事が美麻を視察

阿部守一知事は11月29日、白馬村でのタウンミーティングを前に、神城断層地震で被災した大町市美麻を視察した。家屋に被害の大きかった米山や塩の川で、応急診断で「危険」と診断された住宅などを確認し、被災者と直接言葉を交わした。

(2014.12.1)

大町市美麻 被害拡大を懸念

5日朝、大町市の市街地で里の雪が降った。神城断層地震で被災した美麻地区青貝でも、被災住宅や道路が白く覆われた。雪深い地域で地盤や建物が不安定な中で、今後冬

里に雪被災地も白く



雪で白一色に染まった被災住宅 (美麻地区青貝)

季節の影響が心配されている。雪の多い川手や塩の川地区では、多いところで屋根雪が20センチくらい、道路上で15センチほどの積雪が見られたという。県道や市道では、一部で除雪車も出動。除雪の支障にならないよう、路面のクラック(地割れ)箇所には応急の目地止め作業を行っている。

美麻支所では緊急判定で危険度の高い住宅に注意を呼びかけ、市民農園ラウベや市営住宅、支所への避難の受け入れを継続している。

(2014.12.6)

美麻社協が小中学校に招待

大町市美麻小中学校で3日、同校ランチルームに地域の一人暮らしのお年寄りを招いた交流給食が行われた。美麻地区社会福祉協議会(飯沢要会

長)が地域をつなぐ「見守り、支えあい運動」の一環として初めて実施した。青貝地区の4人が参加。2人ずつに分かれて2年生と5年生のテーブルに座り、子どもたちと同じ食卓を囲んだ。メニューは肉じゃがや肉だんごと春雨のスープなどで「お肉は好き?」「全部好き。嫌いなものはないよ」と会話も弾んでいた。

(2014.12.6)



美麻地区社協が振る舞い

美麻地区社会福祉協議会(飯沢要会長)は17日、美麻地区の神城断層地震の被災者23世帯に手打ちそば50食を振る舞った。同会では例年、郷土食を通して交流しようと年越しそばのそば打ち教室を開いている。

被災者に元気を出してもらいたいと提供することを決めた。梨嶺には4世帯7人が訪れ、被災者同市やそば打ちの会員らと触れ合い、そばをすすった。

NTTドコモ長野支店 タブレット端末実証実験

大町市と市老人クラブ連合会、NTTドコモ長野支店は18日から、高齢者向けタブレット端末の実証実験を美麻地区で始めた。高齢者が地域で暮らすために有効な情報発信や過疎地域での生活支援ツールとしての活用について現場から探る。市での実証実験は昨年到现在2回目。

(2014.12.21)

中学生が地元立体地図

美麻小中学校9年生の男子生徒5人は今年、美麻地区の地形を再現した防災立体ジオラマ地図を制作し、19日に完成した。美麻支所に寄贈し地域住民に発信する。

地図は美麻地区全体を縦横1センチ×1.5センチに収めた平面1万分の1の縮尺。スチレンボードを材料に等高線に合わせて切り出し、標高560センチから1222.6センチの権現山

頂上まで約15センチを重ねた。市の防災マップや美麻村史から、土砂災害警戒区域や急傾斜地崩壊区域、過去の地すべり発生場所などを色のついた糸で囲んだり、絵の具で着色して表した。

神城断層地震の際には、マップを作った経験を生かし、土砂崩れの恐れがある場所について、小学生の教室を回り伝えた。大塚君は「いろんな人に見てもらい、自分の住んでいる身の回りに危ないところがあるのか知ってもらい、災害時の心構えを考えたらうきつけかけになれば」と話した。

(2014.12.21)



危ないところ一目で中学生が地元立体地図